

2013年6月

●下小国地域再生に向けた初の対話会開催(2013年6月29日)

福島県伊達市の下小国区民会主催による地域再生に向けた第1回対話会が6月29日、下小国中央集会所において開催されました。地元住民の方や梁川地区住民、REPA会員を含め60名が参加し、活発な意見交換が展開されました。この対話会は、安心して居住できる地域に再生・復興していくために、「行政や専門家だけでは社会的な課題は解決できない。自分たちが生活するまちに少しでも貢献していきたい」と考えている方々が、先頭を立て動き始めようという働きかけに端を発し企画されたもので、同地区でこの種のテーマで住民集会所が開かれるのは初めてのとのこと。第1回会合では、まず地域に暮らしている皆さんがお互いに何を考えているかを知ることから始めることにしました。しかし、復興・再生に向けて何をどう取り上げて行ったらいいのか見当がつかないため、震災被災地等の復興事業に数多く関わってこられた岩手大学の清水健司教授をお招きし、「これからの持続可能な社会構築へ～ソーシャルビジネスに基づく震災復興活動について/INS(岩手ネットワークシステム)活動紹介?」と題して基調講演をしていただきました。日本人の自然観、市民による環境活動、企業活動の理念、復興支援事業の事例、地域の活性化に必要なことなどが簡潔明瞭に、ユーモアを交えて披露していただきました。



これを受けて、対話会は、REPA 理事の篠田淳司・事務局長がコーディネーター役を務め、進行了。まず、区民会メンバー100名を対象に事前に実施したアンケート調査の回答(31人から回答)を4つの項目について分類・整理し、地区代表の4名の方から発表していただきました。回答をいただいたのは、イ)霜里農場視察(5月29日実施)に参加されての感想、ロ)現在生活されていて困っていること、ハ)小国再生に向けた意見、ニ)再生に向けて実施してみたいことの4点ですが、それらの意見は非常に具体的で、質の高いものになっていたのは驚きでした。これを受けた意見交換では、地域がもともと抱える高齢化や過疎化の問題とともに、原発事故以降にもたらされた諸問題が2年経過した現在も未解決のまま深く根ざしていることをうかがわせる意見が

多く出されました。

続いて、下小国の「魅力」「悩み」「下小国の未来」について、意見を求めたところ、「穏やかな心をもっている」「自然環境」「伝統的な特産品」などが多くの方の共感をもって指摘されました。その一方では、除染が進まないこと、若い世代との対話ができないことなどの解決の見込みのない悩みが指摘されました。ただし、バイオマス発電、メタン発酵、有機農業、道の駅といった10年後に向けた未来や、再生に向けた構想の糸口になるキーワードも指摘されるなど、将来に向けた希望の一端が示されたのは参加者を勇気づけるものであったと思われます。こうして2時間の予定時間もあつという間に時間切れとなるほど、活発な意見交換が行われ、初の対話会は盛会のうちに閉幕となりました。

今後、これらの意見を集約し、個々のテーマについて、さらに住民の方々による意見交換を重ね、具体的な形にまとめていくこととなりますが、その間、地域の方々による非公式の話し合いがどのような深化を見せてくれるのか。地域再生に向けた取り組みはこれからが正念場になってきますが、10月初旬に予定される次回対話会が大いに楽しみです。(篠田記)

●水田除染活動(2013年6月28日～6月29日)

6月28日午前に試験水田生育状況を視察しました。当初試験水田b(コーヒ液肥を散布)の生育が遅かったようですが、その後各PJ担当の区画水田は一樣に成長しており、メンバー一同ほっとしております。東京のメンバーは月に1回程度しか現地に赴いておりませんが、その間大沼さん、大波さんに水田の手入れでお骨折り戴き感謝しております。



また5月のポット試験0、1、サイト試験Aに引き続き、ポット試験2、3を実施しました。これは竹炭をネット袋に封入し、土壌と混じらないように竹炭単体の吸収・吸着特性試験をするものです。詳細は会員のHPをご参照ください。



粉碎した竹炭を篩で分級している富成理事



竹炭をコーヒーマルで粉碎している富成理事(左)と尾園副代表



粒子の細かい竹炭をネットに封入し汚泥水に浸漬



粒子の粗い竹炭をネットに封入し汚泥水に浸漬

●山梨県 再生可能エネルギー施設視察会 (2013年6月14日～15日)

6月14日(金)～6月15日(土)で山梨県内の再生可能エネルギー施設の視察会が実施されました。富士ヶ嶺バイオセンター/若彦トンネル湧水発電所/米倉山太陽光発電所メガソーラー(出力10MW)の見学、石和温泉旅館協同組合との温泉熱利用等の交流会、山梨自然エネルギー発電(株)韮崎市徳島堰22.7kWソーラの見学等で大変有意義なものでした。詳細は以下PDFを参照ください。

[山梨再生可能エネルギー視察記](#)

●霊山PJ実務者会議(2013年6月5日)

第8回総会の審議結果を受け、今年度の活動担当分担、事務局の運営方法について議論され方向付けがなされました。7月には事務局会議を開催する予定です。

同日、霊山プロジェクト会議東京が開催され、6月29日の下小国住民討論会の進め方、現地の作業内容等を検討しました。

●第8回 REPA 総会 とセミナー（2013年6月1日）

第8回総会が13時から千代田区一番町集会室で開催され、議長として牧理事を選出し、2012年度事業活動、決算報告、ならびに2013年度事業活動計画、予算案が審議されました。また中井尚理事が退任され、新たに富成研一氏が理事に就任されました。

今年度は、霊山プロジェクトの強力なる推進と、次のステップへの基本構想策定と補助金申請が最大の活動ですが、同時に定期的な情報交換会の開催、再生可能エネルギー施設見学、セミナーの開催等さらに活動を活発化して行きますのでよろしくお願い致します。



総会風景



佐藤理事代表挨拶



小野監査役の会計報告監査結果説明。左は議長の牧理事

総会后セミナーが開催され、吉田博久氏（首都大学東京大学院 教授）の基調講演「バイオマス利用拡大と放射能汚染」では、福島放射能汚染の状況を自ら現地に踏み込んだ経験に基づく説明と、木質バイオマス発電による放射能汚染物質の濃縮化事例の紹介がなされました。そして佐藤茂夫代表理事、吉田博久・首都大学東京、大沼 豊・霊山プロジェクト現地責任者で参会者も含め、バイオマス有効利用、山林の除染、有機農業の展開、村おこしなど議論百出しとても時間が足りませんでした。有意義な会となりました。

セミナー後近くのイタリアンレストランで懇親会が行われ、さらに意見交換がなされました。

尚本セミナーに関して6月2日付け日本農業新聞に掲載されました。



基調講演の吉田先生



鼎談左より篠田事務局長、大沼氏、佐藤代表理事



鼎談での大沼氏(福島から参加)



懇親会での集合写真